

## 南鳥島と北太平洋問題

農學士 志賀重昂

今日は演題だけは非常に大きうございませうが南鳥島と北太平洋との關係に付て極はめて通俗に御話を申上げやうと思ひます、

此の南鳥島と申しますのは皆さまも新聞紙上で御承知でございませう、或は此の中にアチラへ御いになつた御方もございませうが、この東京灣からして先づ全速力の汽船で直行致しますれば四晝夜ほどで參れまする所で誠に小さな島でございまして、先般破裂いたしました諸君の御記憶になつて居る有名な鳥島の先づ半分ぐらゐの周圍しかない、概して申しますれば、三角の形をして居つて其の各邊は一裡宛しかないのでありますから誠に彈丸黒子と申して宜い、破裂した鳥島は無論火山島で土地に高低がありました、此の南鳥島は珊瑚礁でございませう故、幾らかの高低はありますけれども極端に申しますれば高低は無いと云つても宜いくらゐに殆ど毛氈を海に敷いたやうな極く平な小さな島である、此の如きは小島に對しまして或は亞米利加人が自分の所領だと云ひ或は日本人が我日本の所領だと云ふことで色々其の間に混雜が起りましたことは皆さまも御承知の通りであります、又此の問題に付ては國際公法の極く初歩に書いてあります通り一の所を發見すれば、これを占領する意思があつて其の意思を發表して而して其の占領した實行を繼續して居る所の國の所有に屬すべきもので、南鳥島の日本に屬して居ることは明である、勿論

發見したことは日本人は亞米利加人とか英吉利人とか佛蘭西人よりも後れて居りますが、日本に於ては占領を實行して居るのである、此島を發見したのは記録に依ると今より三十九年前即ち元治元年に亞米利加人が來た事跡があります、其の後又佛蘭西のフルニエと云ふのが來た、それから英吉利の船も屢々來たのであります、それから我日本人が之を見付けたのはズツと下ツて明治十六年でありますから後れては居りませうけれども我日本に於てはそれを占領する意思があり、竝に之を自分の版圖に移したと云ふ譯で、地方廳の管轄に屬すると云ふことを發表した、而して鳥を捕る爲に數十人が絶えず、ソコに在住いたして既に軍艦なども兩度まで派遣した、即ち笠置と高千穂とが參つた、それでモウ無論我日本に於ては總て占領する意思もあり又公然意思を發表し、或は占領の實行を繼續して種々の手段を盡したのでありますから公法に則り我日本の領分たることは意義分明でありますゆゑに別段此のことに付ては申上げませぬ、其の事は申上げませぬが何故に斯う云ふやうな周圍僅に一湮八丁と云ふやうな小さな所の島に付て互に公法上の問題までも惹起さなければならぬと云ふに立到つたか、さうして世人の注意を惹き又亞米利加、希哇又は英吉利其他の新聞に議論を立てたりするやうになつたかと云ふことに付て即ち今夕それ等のことを少し申上げやうと思ふのでございます。

日本の人口の殖えて來ますことは皆さまざま御承知の通りで我々も記憶して居ります、三千五百萬の同胞と云ふことを言つた、我々も言ふたが新聞記者なども申した、それはツイ此の間のことです、が僅かの間に之が四千五百萬と云ふことになりまして、既に最近の統計では四千七百萬人と申し

ても宜いやうになつた、此の後七十年も経つて此の勢ひで参りましたならば一億の人口に我日本がなると云ふことは算用上明であります、斯う云ふ譯で我日本の人口も殖えますが又西洋の人口も同時に殖える、此の殖えると云ふことに付ては人口の多少で少ない所と多い所もございませうけれども矢張り人口が殖えて来る、そこで人口が殖えて來、而して一方には電氣とか蒸氣とか云ふ機械に付て改良に改良を加へて益々製造物が澤山出來て來る、澤山出來て來てさうして供給は非常に殖えて來る、需用も非常に殖えて來るけれども、供給の割合に需用は殖えないから、勞力も餘つて來る、資本も餘つて來ると云ふので、歐羅巴に於ては此餘つて來る人民と資本を如何に處理して行くかと云ふことは我日本よりもモツと急迫な問題としてある、其の結果は背に腹は替へられぬと云ふ譯で皆なさん御承知の殖民政略を實行して他國を侵略する、而して他國を占領するとか又は、人の國を亡ぼしたりすることは宜しくない、と云ふことは百も二百も承知して居るけれども人口過剩の結果として已むを得ず殖民政略を實行すると云ふことになつて居ります、それで南北亞米利加も濠州も亞弗利加も到る處分割が終つて仕舞ひましたから今度は各國とも支那に眼を着けて此の支那を分割しやうと云ふ問題が起つて來て居る、併し今は外交上の均勢を保つ爲め或る國と或る國との同盟と云ふことで支那は分割されずに居りますが、イツカは必ず南北亞米利加化し、歐羅巴化し、大洋州化しするであらうと思ひます、斯様に支那の運命も期して待つべきやうな譯で其の以上はドウするか其の以上に人口が殖えて來たら其の處分法はドウするかと云ふ問題になつて來ると、今度は仕方ない地球を圍んで居る水即ち地球の表面の四分の三を占むる海洋より

外に塲處はないから、ドーしても、此の以上の人口の處分法は海洋を開拓して海の利益を擧げて、海を利用するより他に方法は無い、そこで近來は海洋の利用と云ふことに目を付ける様になりました、是に付て西洋の例を取つて御話すると澤山ありますが、日本の例を擧げて御話する方が分り易い、日本でも人口が多くして地面の足りない中國地方などは山の上までも開墾して居りますが、斯様に人々が多く地面の足りない中國では又同時に海面と云ふものを當り前の畑の如く見做して、陸地の一反歩なら一反歩からして豫め定めたる收穫高の麥なら麥、米なら米、大根なら大根を收穫して居ると同様に海面を利用して居る、斯う云ふのは人間が餘計居て地面の少ない所で皆自然りである、即ち廣島縣とか岡山縣とか云ふやうな所では海面から農産物の收穫と同様に一定の收穫をして居る、それは何だと云ふと淺蜆を養殖する、牡蠣を養殖する、勿論廣島では此の養殖の事業は三百年前からやつて居ります、今日記録に載つて居る所でも既に二百年以上になつて居る、此の蠣を養殖する淺蜆を養殖すると云つても唯漠然と海から獲るのでなくして一定の收穫を一定の海面から得るのであります、それから備前の兒島灣では伏老フシヤと云ふ貝の養殖をやつて居ります、又廣島縣では海苔を獲つて居る、同じく人口の多い江戸——東京のやうな所では一定の粗朶とかシビとか云ふものを建て、一定の所から豫定の海苔を獲らうとする傾きになつて居る如く廣島縣でもシビを建て、海苔を獲つて居る、又九州の有明灣でも蠣の養殖アゲキの養殖を致して居ります、是等は一定の海面から一定の收穫を得やうと云ふのであります、歐羅巴でも澤山ありますが日本にしましても土地の面積に比べまして人口の多い所は到る處さう云ふ傾きになつて、人間が段々

海を利用して海を陸地の如くしやうと云ふ傾きになつて居ります、されば支那處分後に人口の處分をするには必らず地球の表面の四分の三ある所の海を開拓利用して此の處分をするに相違はありませぬ、故に何れも此の小さな所の豆の如き島を取るゝになつて來ました、英吉利人がギルバー島やエリス島などを取るとか亞米利加人がウエーク島とミッドウエーを取るとか南島島を取るとか云ふよりもモツと小さい島を段々取らうとする勢いであります、亞米利加はウエーク島とかミッドウエー島とか云ふ島は餘ほど以前に發見したのであります、けれども今までは殆んど眼中に置かなかつたのであります、然るに今日にては此の眞の彈丸黒子のやうな島を嚴守しやうと云ふ傾になつて來た、それはドウ云ふ譯であるかと云ふと海洋を開拓するに當つてはステーションを置かなければならぬ、自分の足止り場を置いてかゝらなければ海洋を支配することは出來ない、海洋を自分の物にしやうとするには此の飛石のやうな豆粒のやうな彈丸黒子を彼方此方に持つて居るのが海洋を支配する最後の勝利を歸するゆゑに斯う云ふ豆のやうな島までを取らうと云ふのである、それは丁度鐵道の停車場が此邊に出來ると云ふことを見込んで、豫め其の土地を買ひ占めて居れば其の者は、後に停車場がソコに出來て大變な利益を得ると云ふのと同じである、アンな所の砂原を買つて何をするか、丁度コンな彈丸黒子の豆粒のやうな島を取つて何の役に立つかと云ふて居つた所が何ぞ圖らむ其の土地は地價が騰つて停車場が出來た爲に金を儲けた、成るほどアイツ如何にも早く氣が付いたので大變な利益を得たと云ふのと同じことであり、又江戸なら江戸が瓦解した當時は殆んど到る處ろ屋敷が捨價みたやうな價打であつた、それを買つ

て居た者が今日は金満家になつて居る、先づ今日眞の實業で設けたと云ふものは少ない、東京にて大概金持になつて居るものは御維新の時に捨價みたやうなものを買つて居つたので、それが今日のやうな工合に東京が發達して利益を得たと云います、斯う云ふ譯であるから豆粒みたやうな鳥でも取つて置くのは他日に大變な効能があると云ふので取つて居る、彼のミッドウエーはドウでありますか、西班牙から讓受けた所のグナムはドウでありますか、皆な亞米利加が海底電線を敷く時の爲である、海底電線の中繼所とするには彼方此方に向つて豆の如き島を取つて置かなければ後日海を支配するに不便である、さうして置けば他日海を支配するのに便利であります、それから無線電線が出来る、是も始めは十哩かそこらか通じてをつたのが今日は千哩も通ずるのである、さう云ふやうに今日は一ヶ月毎に無線電線を通ずる距離が延びて參るのであります、さうしますると海洋を支配するに當りまして海底電線の中繼所となるのみならず此後とても無線電線の發達するに従つて彼方此方に電池を持つて居らなければならぬ、さう云ふ次第で旁々此の小さな島を取ると云ふのが大流行になつて來たのであります、近頃の西洋の新聞を御讀みになつた方は御承知でございませうが極く豆の如き小さな島に付て色々な問題が起つて來て居ります、敢て電線のみならず漁業に付てもエクレアウス岩問題として英吉利と佛蘭西とが乾魚所なる此の岩に付てさへ外交上の問題になつて居るやうなことであります、實に斯う云ふやうな小さな豆粒のやうな岩に對しても争ふと云ふ傾向である、それで何れ又此の海洋の研究とか何とか云ふことに付ては岸上博士は専門でありますから色々と後に御話になりませうが此の人間が段々殖える爲に海洋を利用

するやうになる。陸地の無い以上は人間の居所は空中に求めるか或は海に求めるかドツチかより仕方がない、それ故に紐育市あたりでは二十階からの家を造つて居る、それは何ぜかと云ふと土地の價が高いので、日本橋邊では高くつても一坪三百圓か五百圓しかしないが紐育になると一坪何萬圓と云ふ程に高いので勢ひ十階、二十階と云ふやうに空中に向つて領分を取らなければならぬ。然らずんば國として大勢を處分するには勢ひ海を奪つて行くより途はないのであります、それ故にオセアノグラフィー即ち海洋學が最近の四、五年間に長足の進歩をして來た譯であります、それでは今までは列國が水産上のこと杯を冷淡に見て居りましたのが近頃では此の水産のことを揃ひも揃つて研究し大熱心になつて之を重んずるやうになつた、有の儘のことを御話を致せば今年の春は露西亞の莫斯科に於て萬國水産博覽會があり、又今日頃濟みましてございませうが今年の秋の九月から十一月まで澳地利の都のウキennaに於て水産博覽會がございませう、又亞米利加に於ては水産大學校を來年度に於て設立しよふと云ふ計畫である、獨逸では伯林に於て海洋學博覽館を新に設立した、殊に獨逸の皇帝が本年四月に獨逸船の通ふ所は何處にても獨逸人たるものは宜ろしく漁業を營むべしと云ふ内勅を出されて居る、かやうに各國が水産のこと、海洋を利用することに眼を着けたのは何だと云ふと前御話したやうな目的である、十階二十階の家を空中に造ると同時に一方は海に向つて手を伸ばすと云ふ方針になるのは是は即ち土地に限りあるより自然の勢ひこゝなるのであります、そこで亞米利加では前御話したやうに小さな島々を占領して段々やつて來て遂に此の南鳥島と云ふものまでも取らうと云ふ考を起した、所が日本に於ては日本の領分

であると言ふので外交上一の問題となりました

さて又亞米利加人が今日北太平洋に向つてドウ云ふ所業を致したかと云ふことを繰返して申しまするとナカノ其の間に脈絡が附いて居つて一朝一夕の事ではありませぬ皆さん御承知の通り歐羅巴人が亞米利加の方へ移住したのであります。亞米利加と云ふ所はゼームス川、コンネクチカト川、ポトマク川、サツナ川など云ふ川が澤山あつて且つ此の川口が皆な歐羅巴の方に向つて開いて居るので歐羅人は最初其の川口より入つて段々内部の方に移つて行きました。そこで大西洋とアレガニー山との間に殖民地が出来た、即ち大洋と山との間に繩なはをハメたやうに挟つて十三州が出来た。ソーシテ此の十三州が連合して英吉利に抵抗し、それからミシピイ平原の方にやつて来た。是は皆さん御承知の通り佛蘭西が持つて居つた所を百年前に亞米利加が買ったのである。即ち來年はミシピイ大平原を買つた百年期紀念の博覽會がある、それからして亞米利加人が沃野千里と云ふ此のミシピイ平原を利用して大農業を起し大牧畜を起して利益を得て西漸の力がロッキー大山脈まで来た。茲まで及んだ所がロッキー山の西のカリホルニヤにて黄金が発見されて其處へ多數の人が行くやうになつた。此の金も始は多かつたけれども終ひには少なくなつたので後では移住民は果物を作り穀類を作つた。此等の農作物が能く出来るから此邊にカリホルニヤ州とかオレゴン州とかワシントン州とか云ふものが出来て遂に歐羅巴から亞米利加に及んだ西漸の力が太平洋まで達して仕舞つた。さて太平洋に達すると此の西漸の力が大洋の水に依つて遮断されるものでないからズーッと太平洋を渡つて来た。来た所が茲に布哇と云ふのが亞米利加に一番



近い陸地でありますから、そこで千八百二十年亞米利加から此の布哇に布教の爲め宣教師が行き始めて段々布哇の經濟上、社會上、宗教上總てのことに亞米利加人が實力を注いで遂に今日は亞米利加の所有になつた、それと同時に亞米利加人が東洋の方に向つて手を伸ばそうと云ふ考をした記録を調べて見ますと千八百五十二年の十二月に出來ました所の「デイーボウ」と云ふ人の記録に依ると千七百九十七年(寛政九年)紐育の船「エリザ」號の「キャピテン」ステワード」と云ふ者が長崎まで來て、それが藥用の人參を持つて來た、是はドウして持つて來たかと云ふと亞米利加の「インチャ」ス即ち土蠻が藥用人參を山に作つて自然藥になると云居つたから米人の「ステワード」は寛政九年にこれを長崎に持つて來たのであります、それで其の後も此の「ステワード」が享和三年に長崎へ持つて來たと云ふ記録が残つて居ります、それから又英吉利と戰爭して亞米利加平和の條約を結び獨立して合衆國となつたのが千七百八十二年であります、それより二年経つて即ち千七百八十四年に亞米利加の「エムプレス」、「オウ、チャイナ」と云ふ船を亞米利加の政治家の「ジョブラス」が世話して廣東に出した、其の時に「ジョブラス」が宜しく暹羅、ボルネオ、日本支那に向つては亞米利加と云ふものが大いに力を振はなければならぬと云ふ考で「エムプレス」、「オウ、チャイナ」と云ふ名を附けて船を出したと云ふことが記録に載つて居る、それから又マサチューセツツ州の「ダービー」と云ふ人も日本に來たてが有ります、それから「ジョン、グインシー」、「アダムス」がマダ大統領にならぬ前に日本へ眼を着けて、日本の千島近海には鯨が居る、宜しく亞米利加から船を出さなければならぬと主張したことも有ります、それから最も不思議なのは千八百十五年に「モンロー」……有名な「モンロー」主義

を發布した大統領亞米利加人は決して歐羅巴人——外國人に向つては喙を容れさせぬ、其の代り亞米利加人は亞米利加人だけで政治をやる、他の國に干渉してはいかぬ、決して亞米利加はヨソの國に手を出さぬ、人の國に手を出さぬ代りにヨソの國からも手を出させぬと云ふモンロー主義を發布した、而かも其の本人のモンローが千八百十五年にコモドル、ポルターと云ふ者を日本に寄越さうと思ひまして其事を決行しやうとしたが遂に行はれなかつたと云ふ者が亞米利加の記録に載つて居ります、さてジヨフアスンはモンロー主義の先生であります、近頃テオドル、クックと云ふ人が米國ワシントンの國務省の秘密文庫を開けて見ると驚いた、それは丁度モンローが大統領になつた時に自分の先輩たる前大統領ジヨフアスンに向つて言ふのに亞米利加は今幼稚である、斯う云ふやうに佛蘭西の勢ひが盛になり英吉利の勢ひが盛になつて來ては仕方がない、ドウしたら宜からう、外交上に付てドウ云ふ方針を取つたら宜からうとジヨフアスンに聞いた、さうするとジヨフアスンの言ふのに今亞米利加は勢力が弱いから黙つて居る、併ながらドウしてもフロリダ、キューバと云ふものと亞米利加は合併しなければならぬ、太平洋に向つて亞米利加が權力を振はなければいかぬのであるが、今さう云ふことをすると英吉利と衝突しなければならぬ、英吉利と衝突したならば到底亞米利加の力では敵はぬから斯う云ふことにするが宜い、ヨソの國にも亞米利加は喙を容れぬ、其代りヨソの國からも手を出させぬと云ふことを發表したら宜い、斯う云ふことをジヨフアスンがモンローに教へた、それで千八百二十三年の十二月にモンロー主義を發表して亞米利加人は外國人にも手を出させぬ、其代り亞米利加人もヨソへは手を出させぬと云ふことが金科玉條にな

ツて居る。さう云ふことでテオドル、クックの發見に依り全くジョフアスンに教へられてモンローがや  
 ったと云ふ其の精神が分つた。此の秘密文庫で能く分つた、それで革命の戦争が濟んで英吉利と平  
 和を結ぶや否やジョフアスンが世話して、エムプレス、オヴチャイナと云ふ船を廣東に出した、そして  
 又モンローが千八百十五年にコモドル、ホルターに命じて日本へ船を出すことにしやうと極つた  
 而して其の事は實行されなかつたが其實は二人ともヨソの國に手を出して亞米利加の叛圖を擴  
 げやうとした、彼の太平洋岸のオレゴン地方を亞米利加が占有しやうと云ふ時には非常に英吉利  
 に向つて強硬なる主義を取つたことがあります、それでありますからモンロー主義を米國の政治  
 家が金科玉條として居つたと思ふと大變に違ふやうであります、さう云ふ秘密の事が分つた以上  
 は其の間の事の解釋が能く分るのであります。(未完)

## 日光湯の湖(本邦湖沼調査略報の四)

田中 阿歌麻呂

余は昨年度より日光火山彙地域内に散布せる諸湖の研究に従事し去る十月上旬日光湯の湖并  
 中宮祠湖の湖學的調査に着手したり日光湯の湖は去十月二日を以て其深淺錘測を施行し湖底形  
 態を詳細に探知するを得たり

### (一) 湯の湖の位置、面積湖岸、受水區域、